

60th
2011 - 2021

時代編

情
愛
100

I. こころざしの時代

1961(昭和36)年～1970(昭和45)年

1961

竹中育英会の設立

竹中育英会設立の発意と準備

●発意

《14世竹中藤右衛門叙事伝》によれば、竹中育英会設立の発意は下記のように記されている。

「(竹中工務店の) 神戸進出満60年を迎えた昭和34年には、いろいろな記念行事の外に記念事業が企画実施された。その一つとして取り上げられたものに、社会福祉と育英のための法人設立という案件があった。その趣旨は『建設業者として一般社会から受けた恩恵に感謝するとともに、その恩恵を社会に還元しなければならない』ということであった。どんな道を選んだらよいか、構想は絶えず練られていたが、結局において、社会福祉と奨学制度の二つに絞られた。

それが具体的な形になったのは1961(昭和36)年である。当初、考えられたのは、衆善会・積善会・積徳会・報徳会・報恩会・奨学会という意味を込めたものであった。各方面の意見を聞いたり調査した結果では、社会福祉事業と奨学事業とは主務官庁が別々であったりする困難が予想されるので、むしろ、どちらかに重点をおくべきだと考えられるに至ったので、将来の日本を荷うべき青少年の育成に主力を注ぐことになった。しかし、社会福祉を見送ることはできなかったのが、次善の策として考えられたのが、『育英事業を根

幹として、その事業の許される範囲内で社会福祉的事業を兼ね行う』ということであった。」育英会の設立が、ここで決定した。その意図は、設立趣意書が「この法人は、その事業を通じて青少年の育成と技術の奨励を図り、もって社会に寄与することを、設立の趣旨とするものである」と結ばれている通りである。しかし、「財団法人竹中育英会」として認可を得るまでには、なお、多くの考慮が払われねばならなかった。その考慮の焦点は、奨学生をどんな意味からも束縛しないことと、役員や委員には新たにこの会の主意を理解し援助していただける方々をお願いすることとであった。

そのため、文部省、日本育英会、他の育英団体の意見も聞き、適切な助言を得ることができた。このような準備期間に思わぬ時間が流れていったのは、それだけ、この事業の基礎固めに真剣だったからであると回顧されるのである。

●設立準備

設立準備会が1961(昭和36)年8月に設置された。メンバーは、竹中工務店の相談役(創立者となる竹中藤右衛門)、同社長(後に第二代理事長となる竹中鍊一)、同副社長(後に監事となる竹中宏平)、同企画室長、同総務室長、同監査室長の6名であった。

最初の立案について最も注意されたことは、

●日本育英会にも公私の育英会にも見られない特色をもつこと。

●すべてが公平無私に運営できるように、官公庁をはじめ有識者の指導協力支援を懇請すること。

●役員その他の構成員には、万人に納得して貰える方々をお願いすること。

●かりにも、竹中の青田刈りだなどと陰口を言われることのない内容であること。

この方針に従って、同年8月、設立準備委員会を開催し、おおむね次の事項が決定された。

- ①名称を財団法人竹中育英会とする。
- ②財産は竹中工務店の寄付金2億円をこれに充てる。
- ③育英事業のうち奨学制度を根幹とする。
- ④奨学生の対象を高等学校と大学におく。
- ⑤奨学金は全額給与で、償還を義務付けない。
- ⑥奨学生の専攻は本人の自由とする。
- ⑦卒業後の進路は本人の自由とする。
- ⑧役員13名中、竹中工務店関係者は5名以内とする。
- ⑨財産及び設立後の5会計年度に亘る事業計画及び之に伴う収支予算書を作成する。
- ⑩事業年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
- ⑪「寄附行為」を成文化する。
- ⑫設立代表者を竹中藤右衛門とする。

一方、竹中工務店取締役会は、この企画に対して2億円を寄付することを決議した。か

くして、1961年10月25日に主務官庁の文部省に設立許可申請書を提出するに至った。(竹中工務店社報1971年10月号「育英会設立の前後」鷺尾九郎より)

1961

竹中育英会の設立

財団法人竹中育英会の設立が文部大臣の許可を得たのは1961(昭和36)年12月20日であった。「感恩報謝」の精神をもって、社会から受けた限りない恩恵に報いるための事業にしたいという竹中藤右衛門翁の強い意志により「財団法人竹中育英会」は誕生した。

文部省の許可がおりた後、竹中藤右衛門理事長は、ただちに選考委員会の立ち上げに携わり、委員長を委嘱する天野貞祐氏を自ら獨協学園に訪ね就任を懇請したほか、水野敏雄氏、榎智雄氏、大岡富太郎氏、高津彦次氏らに面会し委員就任を委嘱した。

そして1962(昭和37)年1月24日、第1回理事会を開催、評議員と奨学生選考委員の委嘱を決定し、竹中育英会は発足した。



創設時の社会からの反応

I. ころざしの時代

1962

第1回奨学生懇談会
研究助成事業の開始

1962

初期の育英事業

初年度の奨学生推薦を依頼する大学は、以下の通りであった。

大学院	東京大学 ほか4校
大 学	北海道大学 ほか16校
高 校	東京地区31校・愛知地区6校・ 京都地区5校・大阪地区8校・ 兵庫地区5校 以上55校

また、1962(昭和37)年4月には大阪・東京において大学当局との懇談会を開いて、協力を要請し、さらに同年5月16日開催の第2回理事会で、①学生寮の設置運営、②学校教育施設の助成、③研究助成金の交付、これら三つの事業目的を追加した。

大学院と大学の奨学生選考は特に慎重を要することから、選考委員会は各大学からの推薦者について、書類審査によって採用候補者を選定し、次いでこの候補者を札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡の各地に招集して面接した。

一方、高校生に対する面接は省略したが、文書によって数項目の質問への回答を求めて選考の資料とした。その結果、選考委員会の意見が理事会に答申されて決定をみた人員は次

の通りであった。

区 分	学校からの推薦数	採用決定数
大学院	4名	4名
大 学	227名	176名
高 校	61名	55名
計	292名	235名

しかし、学校側から新たに高校生12名、大学院生1名の推薦があり、審査の結果採用したい旨の提案がなされ、全員一致で給付を決定した。この追加採用を加えて、最終的に第1回奨学生は大学院5名、大学176名、高校67名(計248名)となった。

第1回奨学生を迎えて

奨学金は月額、大学院1万5千円、大学1万円、高校3千円、当時のわが国最高水準の奨学金だった。また同年7月、第1回奨学生の歓迎を兼ねた懇談会が、東京・大阪で学校当局者を交えて開催された。



1963

大学院奨学生の専攻学科制限を撤廃
学校教育設備助成事業の開始
第1回卒業奨学生歓送会
会誌の発行
第1回建築研究助成交付者懇談会の開催
推薦依頼校との交流
第1回東京地区竹中奨学生の集い



研究助成事業の開始

1962(昭和37)年、若手研究者への助成のため、日本建築学会を通じて建築に関する学術・技術の研究を募り、毎年10~20件に対し「建築研究助成金」を交付する研究助成事業が開始された。

1963

大学院奨学生の専攻学科制限を撤廃

1963(昭和38)年には建築学に限定していた大学院奨学生の専攻学科制限を撤廃し、翌1964(昭和39)年には採用人数も5名から20名へ増加させた。

学校教育設備助成事業の開始

1963(昭和38)年、第1回学校教育設備助成が無憂園、聖ステパノ学園に行われた。また同年、第1回全国高等学校への良書寄贈が行われ、学校教育設備助成事業が開始された。

第1回卒業奨学生歓送会

1963(昭和38)年3月、第1回卒業奨学生歓送会が大阪・東京で開催され、卒業奨学生のうち48名が出席、多数の来賓者・学校関係

者の祝福を受け、感銘深い一夕を過ごした。



大阪



東京

会誌の発行

1963(昭和38)年4月30日、竹中育英会の機関誌「会誌」No. 1が発行された。今後国内外で大いに活躍することが期待される卒業生と全奨学生に向けて竹中育英会の行事や関係者の動向を伝えていくことを目的に、情報の発信を開始した。



I. ころざしの時代

1963

大学院奨学生の専攻学科制限を撤廃
学校教育設備助成事業の開始
第1回卒業奨学生歓送会
会誌の発行
第1回建築研究助成交付者懇談会の開催
推薦依頼校との交流
第1回東京地区竹中奨学生の集い

第1回建築研究助成交付者懇談会の開催

1963(昭和38)年7月25日、研究助成事業を有効に推進していくことを目的に、助成交付者の中間報告等を兼ねた第1回竹中育英会建築研究助成交付者懇談会が、日本建築学会の主催で開催された。懇談会には、助成交付者13名中10名が出席、学会から2名、当育英会からは竹中藤右衛門理事長をはじめ4名、竹中工務店から2名が参加した。



挨拶する竹中藤右衛門理事長

推薦依頼校との交流

奨学生の募集および採用活動を経て、当育英会の事業への趣旨が各学校に理解されていく中、推薦依頼校との交流も生まれ、1963(昭和38)年11月、当育英会の厚志に謝するとして、早稲田大学総長から招宴があった。竹中藤右衛門理事長をはじめ当育英会から4名が招待された。また1964(昭和39)年3月には、日ごろの感謝や今後のことなどを懇談したいとの意図で、東京教育

1964

推薦依頼校の追加(2校)
竹中藤右衛門理事長叙勲
東京学生寮開寮

1965

推薦依頼校の追加(1校)
東京地区竹門会の発足
竹中藤右衛門初代理事長急逝

1966

竹中錬一新理事長就任
関西地区竹門会の発足

大学と懇談会が開催され、竹中藤右衛門理事長が招待された。



早稲田大学大隈会館にて

第1回東京地区竹中奨学生の集い

1963(昭和38)年12月7日、第1回「東京地区竹中奨学生の集い」が慶應義塾大学の食堂を借りて開催された。竹中藤右衛門理事長をはじめ選考委員の先生方、大学関係者を来賓として招待し、奨学生自身の企画で開催された自主的な集いであった。

1964

推薦依頼校の追加

1964(昭和39)年、発足当時の推薦依頼校17校に青山学院大学・甲南大学の2校を追加し、計19校とした。さらに1965(昭和40)年には獨協大学を追加して20校となった。

竹中藤右衛門理事長叙勲

1964(昭和39)年5月7日、竹中藤右衛門理事長は第1回生存者叙勲により勲三等旭日中綬章を受章した。

1967

大阪学生寮開寮

1968

1969

1970

東京学生寮開寮

1964(昭和39)年7月、東京都練馬区に竹中育英会東京学生寮が開設され、学生寮運営事業が開始された。開寮式には文部省関係者および大学関係者16名の来賓、当育英会から9名、奨学生67名、卒業生10名、計102名が参列した。初代寮監には高津彦次選考副委員長が就任した。



寮全景



開寮式

1965

竹門会の発足

1965(昭和40)年、竹中育英会卒業奨学生の会として「東京地区竹門会」が誕生した。1963(昭和38)年、慶應義塾大学において

開催された「東京地区竹中奨学生の集い」を機に、学校学部の壁を乗り越え、竹中奨学生という共通の場を生かしていこうとの意見から、有志を募って発起の準備を進め発足に至ったものである。

また1966(昭和41)年には「関西地区竹門会」が発足し、活動を開始した。

竹中藤右衛門初代理事長急逝

1965(昭和40)年12月27日、竹中育英会創設者理事長竹中藤右衛門翁が急逝。享年88歳。

1966

竹中錬一新理事長就任

1966(昭和41)年、竹中藤右衛門氏の後を受け、竹中錬一氏が理事長に就任した。

1967

大阪学生寮開寮

1967(昭和42)年、大阪学生寮が開寮した。寮監には谷山隆夫氏を迎え、寮生6名でのスタートとなった。



大阪学生寮外観

Ⅱ. つながりの時代

1971(昭和46)年～1980(昭和55)年

1971

竹中育英会創立10周年

1972

竹門会統一
竹中育英会の歌誕生

1973

1974

大阪事務局の移転
(堂島タケナカホール)

1975

大阪学生寮廃止
会誌発行回数の変更

1976

東京事務局の移転
(浜離宮ビル)
建築研究助成金を増額

1977

1978

竹中藤右衛門初代理事長
生誕100年

1979

高校生への奨学金給付を
廃止
大阪事務局の移転
(御堂ビル)
第1回関西地区6大学合同
忘年会の開催

1980

1971

竹中育英会創立10周年記念行事

●創立10周年記念の会開催

1971(昭和46)年、竹中育英会創立10周年記念の会が東京・大阪で開催された。創立から10年、977名の卒業生が学界・官界・産業界など各方面で活躍する当育英会にふさわしく、卒業奨学生によるさまざまな分野から内容豊かな記念講演が行われ、将来の進展を強く啓示した感銘深い会となった。



大阪



東京

●卒業生有志による竹中藤右衛門翁の墓参

1971(昭和46)年9月、卒業奨学生有志60数名が亡き竹中藤右衛門翁の墓参のため、名古屋市昭和区の八事山興正寺に参集した。



初代理事長の墓参

1972

竹門会統一の動き

竹中育英会創立10周年に際して、東京・名古屋・関西各地区竹門会の有志による記念行事「竹中藤右衛門翁の墓参」を機に、長く懸案となっていた竹門会統一の気運が一気に高まり、各地区代表者による準備委員会により統一竹門会規約の大綱が作成され、1972(昭和47)年の定期総会を経て、竹門会統一の運びとなった。

竹中育英会の歌誕生

会誌で歌詞を募集し酒井和彦氏(1970年関西大学卒)の作品が当選。作曲は「NHKあなたのメロディー」のミュージックディレクターで新進の一ノ瀬義孝氏に依頼。1972年12月発行の会誌で掲載発表された。(P.110参照)

1974

事務局の移転

大阪事務局は、長らく竹中工務店本店内に置かれていたが、1974(昭和49)年7月、堂

島タケナカホールに本部事業を移転した。また本部事務局の隣室に「談話室」を開設、奨学生や竹門会員の集会所として活用された。さらに1976(昭和51)年5月には、東京事務局が浜離宮ビルに移転し、奨学生や竹門会員が気軽に立ち寄れるよう、隣接して竹門会サロンも開設された。

1975

大阪学生寮廃止

大阪学生寮は利用者が少なく、1974(昭和49)年度には入寮定員36名に対してわずか6名の入寮者となった。これらの学生も同年度末で全員卒業退寮となり、新たな入寮希望者も皆無であることから、当学生寮の存在価値はほとんど失われたため、1975(昭和50)年3月に廃止となった。

1976

建築研究助成金の増額

1976(昭和51)年度から、建築研究助成金を倍額給付することを決定。従来1件10万円(20件/合計200万円)から、1件20万円(20件/合計400万円)とした。

1978

竹中藤右衛門初代理事長 生誕100年

竹中育英会初代理事長、竹中藤右衛門翁の生誕100年の年であった1978(昭和53)年、かねてより若干停滞気味であった竹門会の活動を、もう一度立て直そうという主旨で準備

が重ねられてきたが、この機に翁の警咳に接したことのある第1期・第2期・第3期生が中心になって親睦の分科会(一二三会)を結成し、竹門会再生の活動の一つにすることとなった。



一二三会のメンバーを中心に墓参

1979

高校生への奨学金給付を廃止

長らく貢献してきた高校生への奨学金給付を、時代の推移に鑑みて段階的に廃止することを検討。1978(昭和53)年度には新規採用を中止し、1979(昭和54)年度から奨学金給付を廃止した。

第1回関西地区6大学合同忘年会の開催

1979(昭和54)年12月、初の関西地区6大学(京都大・大阪大・神戸大・関西大・関西学院大・甲南大)合同忘年会が開催された。関西地区の大学によっては、学生の集いがもたれているところもあったが、6大学まとまったの忘年会は初めての催しであった。竹中育英会事務局、各大学の学生・厚生係の方々、当日飛び入りの卒業生なども加えて、総勢約40名の盛況な忘年会となった。

Ⅲ.うけつぐ時代

1981(昭和56)年～1990(平成2)年

1981

竹中育英会創立20周年

1982

1983

1984

1985

1986

竹門会創設20周年
「竹中育英会への感謝の
集い」開催
竹門会 会員情報システム
の完成

1987

竹美会発足

1988

東京学生寮第1次改修工事
竹中錬一理事長デミング
賞本賞を受賞

1989

1990

竹中統一新理事長就任

1981

竹中育英会創立20周年を記念して

●記念行事の内容

竹中育英会創立20周年を翌年に控えた1980(昭和55)年7月、創立20周年記念行事を大阪と東京で開催し、いずれも竹中育英会主体の記念式典、記念講演、レセプションで構成される第一部、竹門会主体の懇親会、放談会などで構成する第二部とすること、記念行事参加募集およびアンケート募集は会誌誌上で告知するなどの概略が決定された。また、竹中育英会の要望ですべての企画立案が竹門会に委託された。さらに竹門会により創立20周年記念号が企画され、20年に及ぶ竹中育英会ならびに竹門会の歴史を知り、会員相互の理解を深め、さらに今後の発展を期して約160ページの大冊を発行することとなった。

●竹中育英会創立20周年記念の会

竹中育英会創立20周年記念の会は、大阪は1981(昭和56)年10月10日～11日、東京は同年11月22日～23日にそれぞれ2日間のスケジュールで開催された。



挨拶される竹中錬一理事長(大阪)

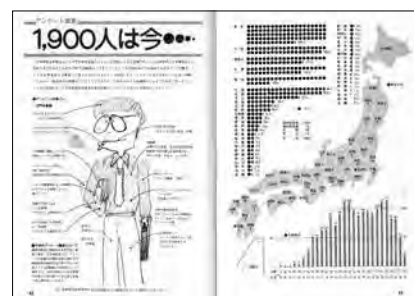
大阪では東京大学太田勝敏助教授、東京では京都大学松田卓也助教授による有益な記念講演の後、祝宴を開始。数々の企画で盛り上がり、竹門会から竹中育英会への記念品、竹中錬一理事長への花束贈呈などが行われ、再会を誓って散会した。



竹中錬一理事長に花束を贈呈(東京)

●20周年記念号

20周年記念号では、創立の1961(昭和36)年度から各年度別に、東西の当時を知る会員からの時代の推移を感じられる寄稿や事前に行ったアンケート調査の集計結果(竹中育英会卒業生1,895人を対象とし、うち445人の有効回答を集計)などが掲載された。アンケート集計の結果、「タバコを吸わない人が約7割。仕事には満足しているが給料には不満あり。旅行で行きたい場所はスイス、北海



会誌「竹中育英会20周年記念号」より

道。仕事を2時間ほど減らし、家族団らんや自分の時間をあと1時間ほど増やしたい。余暇はスポーツ。約7割は仕事が終わるとまっすぐ帰宅。」という会員像が見えた。

1986

竹門会創設20周年記念行事

竹中育英会の卒業奨学生の子である竹門会は、竹中育英会創立から4年後の1965(昭和40)年に東京で発足、翌1966(昭和41)年には大阪でも組織が発足した。1986(昭和61)年は竹門会発足20周年にあたり、記念行事の開催が関西地区より提案された。地域の枠を越え、国内外の全会員に呼びかけ賛同金の募集をし、記念行事「竹中育英会への感謝の集い」を行うことになった。

竹門会 会員情報システムの完成

1986(昭和61)年、竹門会20周年記念行事「竹中育英会への感謝の集い」で、関西地区竹門会が感謝の気持ちをこめて竹中育英会に贈った記念品である。竹門会員の住所、連絡先、職場などから専攻や趣味まで、さまざまなテーマ別に検索、情報の変更、宛名シール印刷などに活用できるもので、竹中育英会の厚意により、竹門会の活動のための利用も可となった。

1987

竹美(たけみ)会発足

竹門会20周年記念行事「竹中育英会への感謝の集い」が開催された折、20周年を機に

女性会員のみの集いが企画され、1987(昭和62)年3月、第1回の懇親会が開かれた。竹中工務店東京本店内の竹門会サロンに東京周辺の女性会員を中心に11名が集まり、話題が尽きる事のない有意義な会合となった。出席者からは次年もぜひ開きたいとの要望があり、竹門会女性懇親会として名称を「竹美会」に決定した。

1988

東京学生寮第1次改修工事

1964(昭和39)年に竣工して以来、勉学と生活の場、修養と友情の場として多くの奨学生に親しまれてきた竹中育英会東京学生寮は、築24年を経過して設備機器の配管はじめ建物の老朽化が進んだことから、1988(昭和63)年7月～9月に改修工事が行われた。

竹中錬一理事長デミング賞本賞を受賞

1988(昭和63)年10月、竹中工務店竹中錬一会长が、昭和63年度デミング賞本賞を受賞した。さまざまな形でTQCの啓蒙・普及に貢献された実績を評価されての受賞は、竹中工務店はもちろん、当育英会にとっても非常に喜びであった。

1990

竹中統一新理事長就任

1991(平成3)年の竹中育英会創立30周年を目前に控え、かねてから療養中の竹中錬一理事長に代わって、1990(平成2)年11月14日、竹中統一氏が第三代理事長に就任した。

IV.ひろがる時代

1991(平成3)年～2000(平成12)年

1991

東京事務局の移転
(千駄ヶ谷インテス)
竹中育英会創立30周年

1992

竹門会「竹中育英会への
感謝の集い」開催

1993

1994

竹中育英会学生寮30周年

1995

阪神・淡路大震災

1996

竹門会創設30周年
竹中錬一前理事長逝去

1997

1998

1999

2000

1991

竹中育英会創立30周年を記念して

創立者竹中藤右衛門翁が、その根本精神である「感恩報謝」の精神を具現化して創設された当育英会は、1991(平成3)年、創立30周年を迎えた。その間、卒業生は2,341名を数え、そのうち232名が博士号を取得したほか、官界・学界・産業界の第一線で活躍している。竹中翁が夢見た育英事業がここまで発展できたのは、関係機関や各大学のご理解とご支援、選考委員の先生方をはじめ、評議員、竹門会のご尽力の賜物であり、その感謝の意をこめて竹中育英会創立30周年祝賀会が開催された。

1992

竹門会「竹中育英会への感謝の集い」開催

竹門会サロンは、竹中育英会30周年を機に大阪・東京ともに新装され、室内には記念祝賀会で贈呈された竹中錬一前理事長の肖像画が掲げられた。1992(平成4)年5月22日、サロン新装への感謝をこめて、竹門会主催による「竹中育英会への感謝の集い」が新装したばかりの東京竹門会サロンで開かれた。

1994

竹中育英会学生寮30周年記念事業

1964(昭和39)年に開設された学生寮も30

周年、何か記念になることをしようとの話から、1994(平成6)年5月、18名の賛同有志が集まり、墓参、記念パーティー、学生寮でのテニス大会、「もぐら」特別号の発行、名簿発行など学生寮30周年記念事業の概略が決定した。

●墓参

1994(平成6)年11月5日、墓参委員をはじめとした有志が、名古屋の竹中藤右衛門初代理事長の墓所、および大阪にある初代寮監の高津彦次先生の墓所に墓参した。

●記念パーティー

1994(平成6)年11月19日に千駄ヶ谷インテス内アルコで開催された学生寮30周年記念パーティーには、寮出身者を中心に総勢74名が参加した。四半世紀ぶりの久闊、今でも顔なじみの仲間、現在の寮生などに加え、初期の寮母さんの参列もいただき、会場は各々の時代を懐かしむ弾んだ声に満ちた。

●テニス大会

学生寮30周年を記念して有志が東京学生寮に集合、テニス大会を開いた。

30年前は大根畑の真ん中にポツンと白亜の学生寮が建っていたが、現在では商業ビルやマンションが林立し、当時の細道もなくなっていたことから、周辺環境の変化に時の経過を改めて感じさせられた卒業生たちであった。テニス大会では、在寮生も交えたプレーに時間を忘れて興じ、また特別に用意された

昼食のカレーに舌鼓を打った後、風呂に入り、湯船に浸かりながら、寮時代の生活をあれこれと思い出す楽しい1日となった。



テニスを楽しんだ卒業生・在寮生の面々

●「もぐら」特別号の発行

「もぐら」は、1968(昭和43)年に創刊した東京学生寮の寮誌である。1975(昭和50)年に会誌に統合されたが、当初は創作作品・エッセイ・評論・座談会などバラエティに富んだ原稿が多数集まった。高津寮監、西村事務局長も寄稿し、年齢や立場を越えた名物誌だった。誌名の由来は、学生寮テニスコートにボコボコと土を掘り上げる憎めない主、モグラに因んだ。今回はかつての寮生による学生寮の思い出などの小文を、会誌に「もぐら」特別号として復活することとなった。

●名簿発行

学生寮30周年を機に、今後の交流に役立つよう、学生寮出身者の名簿を取りまとめた。

1995

未曾有の大震災を乗り越えて

1995(平成7)年1月17日午前5時46分、兵庫県淡路島北端を震源とする地震が発生し

た。阪神・淡路大震災である。被災地の復興もままならない同年3月、第33回卒業奨学生歓送会が東京と大阪で開催された。震災直後の式典とあって、会は震災被害者への黙祷から始まった。

1996

竹門会創設30周年

1996(平成8)年、竹門会は発足から30年を経過、会員数も2,583名になり、翌年記念行事が行われた。

東京「竹門会創設30周年記念講演会」

1997年3月29日 参加者 63名

竹門会創設30周年を記念する行事を行うにあたり、親睦を深めるだけでなく、ともに学び合うのが基本と考え、会員が講師となり講演を行う第1回の竹門会フォーラムとなった。講演会後は懇親パーティーが開かれ、懐かしい仲間同志の談笑が続いた。

関西「竹門会関西地区30周年記念の会に集う」

1997年11月15日 参加者 63名

関西地区では名古屋地域以西を対象に記念行事を行い、第一部は竹門会員によるパネルディスカッション、第二部は記念パーティーを開催した。会場には、会員の著作物や写真、近況などの展示コーナー、子ども連れの会員のために子どもコーナーを設けて映画やゲームが楽しめるようにした。家族同伴のアットホームな会となった。

竹中錬一前理事長逝去

1996(平成8)年12月31日、竹中錬一前理事長が逝去された。享年85歳。

V. はばたく時代

2001(平成13)年～2010(平成22)年

2001

大阪事務局の移転
(梅田センタービル)
竹中育英会創立40周年

2002

2003

2004

2005

卒業奨学生
3,000名を超える
東京地区竹門会40周年記念
「竹中育英会への感謝の
集い」開催

2006

第1回東京学生寮
卒業生懇親会開催
第1回竹門会
ラウンジ懇話会

2007

2008

2009

東京学生寮建物調査実施

2010

東京学生寮第2次改修工事

2001

21世紀を迎えて

1961(昭和36)年の竹中育英会創立から40年が過ぎ、時代は21世紀を迎えた。20世紀の科学技術の発展により、新世紀はさらに高度な地球レベルの進展が望まれる。1963(昭和38)年に第1回の卒業生を社会に送り出して以来、第39回にして卒業生の総数は2,851名となり、当育英会も規模だけでなく、さらに広がりのある人材の輩出により社会貢献に資する時代になった。

2005

卒業奨学生3,000名を超える

2005(平成17)年3月、第43回卒業奨学生歓送会が大阪・東京の両会場で開催された。この年の卒業生は大学院生29名、大学生40名の計69名で、竹中育英会創立から44年を経て、卒業生数は3,028名と3,000名を超えた。

東京地区竹門会40周年記念

「竹中育英会への感謝の集い」開催

2005(平成17)年、竹中育英会卒業奨学生

東京地区竹門会40周年記念「竹中育英会への感謝の集い」

2005年12月3日 パレスホテル ゴールデンルーム

出席者 162名

●来賓

竹中統一理事長

増原幸雄常務理事

齋木俊男理事

松嶋由紀子選考委員長

真仁田昭選考委員

香山壽夫選考委員

鈴木基之選考委員

田村幾蔵監事

亀岡由雄監事

●竹門会(144名)

吉田博一評議員

竹中康一評議員

横田武美評議員

八木 章評議員

竹中勇一郎氏

小早川洋太郎前評議員

三橋七郎元常務理事

樺島達雄東京事務局長

安村光司大阪事務局長



の会として発足した竹門会が40周年を迎え、同年12月、東京地区竹門会40周年記念「竹中育英会への感謝の集い」がパレスホテルにおいて開催された。

2006

第1回東京学生寮卒業生懇親会開催

東京学生寮が開寮して40数年を経た2006(平成18)年3月、東京学生寮卒業生懇親会が開催された。

参加者は35名。寮訪問は卒業以来はじめての卒業生も多く、中村橋駅が高架になったこと、寮周辺が昔の畑から一変し、マンションが建ち並び寮が展望できず迷ったりと、時の流れを実感した。

懇親会では、懐かしい思い出や寮生へのアドバイス、近況や抱負などのスピーチがあり、保管されていた創設当時の寮生同士の交換ノートを見て、40年振りの自分の文章に出会い感激する面々もあった。

また、2007年には第2回、2009年には第3回、2012年には第4回が開催された。

第1回竹門会ラウンジ懇話会

2006(平成18)年4月、第1回竹門会ラウンジ懇話会が開催された。テーマは「構造計算書偽装問題についての受け止め方」。

3名のパネリストからは、①構造設計が建築の設計においてどんな位置づけにあるのか、どのようなことを考慮して設計作業をしているのか ②構造設計者の責任の重さに比して

設計料が低すぎる現実について ③短期で考えた効率主義や競争至上主義が過ぎると捏造や偽装の原因となるなどの説明があり、全員による意見交換、討論が活発に行われた。なお第1回開催の後も、毎年のようにさまざまなテーマで開催されている。

2009～2010

東京学生寮建物調査～第2次改修工事

1964(昭和39)年に開寮した竹中育英会東京学生寮は、1988(昭和63)年に大規模改修工事が行われたが、その後外装の改修工事を経て、築45年が経過していた。そこで2009(平成21)年、これまで未着手であった耐震対策のため、竹中工務店による耐震診断を実施、併せて全面的な建物調査を行った結果、2010(平成22)年、耐震補強・設備更新をはじめとした改修工事が実施された。



整備されたテニスコートと新設された空調室外機



暖房ラジエーターを撤去し空調機を設置

VI. のびゆく時代

2011(平成23)年～2021(令和3)年

2011

東日本大震災 復興支援活動
竹中育英会創立50周年
「竹中育英会 創立50周年
記念の会」開催
「竹中育英会50年史」刊行
海外留学支援事業開始

2011

東日本大震災 復興支援活動

2011(平成23)年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とする地震が発生した。東日本大震災である。くしくも第49回卒業奨学生歓送会が大阪で開催された日の出来事であった。当育英会では、東日本大震災で被災した学生および大学研究施設のため、総額1億円の寄付を実施、東京地区竹門会からは緊急支援として、日本赤十字社に50万円が寄託された。また、会員から義援金として100万円を超える寄付が集まり、当会を通じて震災孤児支援を目的とした全国里親会「東日本大震災・子ども救援基金」に寄託された。

竹中育英会創立50周年を記念して

「感恩報謝」という竹中藤右衛門翁の根本精神から創設された当育英会は、2011(平成23)年に創立50周年を迎えた。その間、経済のグローバル化の進展や科学技術の発展など、社会が大きく変容する中、3,300名の奨学生を社会に送り出してきた。また、そのうち390名が博士号を取得していることをはじめ、官界や産業界など、各分野の第一線で活躍する人材の育成に貢献できたことは、「事業を通じて青少年の育成と技術の奨励を図り、もって社会に寄与する」という設立の趣旨を具現化し続けた成果である。

●竹中育英会 50周年記念の会開催

当育英会の創立50周年を記念して、「竹中育英会 創立50周年記念の会」が大阪・東京に分かれて開催された。新奨学生歓迎会を兼ねて開催された記念の会は、東西合わせて20校から35名の来賓を迎え、竹中工務店関係者ならびに当育英会関係者、竹門会員、奨学生など多くの出席者を集め、盛大に行われた。

●竹中育英会 50年史の刊行

創立50周年を機に、創設から半世紀にわたる歩みを記録として残すこと、また次の半世紀に向けての飛躍の拠り所とすることを目的に、「竹中育英会 50年史」を刊行した。



編纂に当たっては、竹中育英会内会議体の議事録、選考記録などのほか、会誌・竹中工務店社報などを主な史料とした。また、長年選考委員を務めていただいた松嶋由紀子選考委員長をはじめ、東京地区竹門会・関西地区竹門会および卒業生、現役奨学生の方々から多くの寄稿をいただくなど、旧役職員の方々を

竹中育英会 創立50周年記念の会(大阪)

2011(平成23)年10月14日 ヒルトン大阪 桜の間

出席者 230名

●来賓(敬称略)

名古屋大学	副総長	杉山 寛行	九州大学	副学長	丸野 俊一
名古屋工業大学	副学長	鵜飼 裕之		学生生活課長	杉山 吉隆
	学生生活チームリーダー	須賀 達也	関西大学	副学長	黒田 勇
京都大学	奨学掛長	山下 靖弘		学生センター所長	笹倉 淳史
大阪大学	総長	平野 俊夫	関西学院大学	学長	井上 琢智
	学生部長	尾藤 広幸		学生副部長	佐藤 博信
神戸大学	副学長	石田 廣史	甲南大学	学長	高阪 薫
	学生支援課長	小野 雅章		学生部長	伊豫田隆俊
広島大学	副学長	川崎 信文			

●竹中工務店関係者(6名)

●竹中育英会

竹中統一理事長、海野常務理事、鈴木理事、松嶋選考委員長、武田・山崎監事、八木・富田評議員、高橋・斉藤事務局長

●竹門会員

●奨学生



竹中育英会 創立50周年記念の会(東京)

2011(平成23)年10月18日 帝国ホテル 富士の間

出席者 247名

●来賓(敬称略)

北海道大学	学務部長	小泉 信隆	獨協大学	学長	梶山 皓
東北大学	理事	根元 義章		学生部長	板場 良久
	教育・学生支援部長	上口 孝之	早稲田大学	理事	紙屋 敦之
筑波大学	副学長	西川 潔		学生部長	笹倉 和幸
	学生部長	岡田 実	慶應義塾大学	常任理事	長谷山 彰
東京大学	奨学厚生課課長	小野瀬克二		学生総合センター長	伊東 裕司
東京工業大学	学長	伊賀 健一	青山学院大学	学長	伊藤 定良
	副学長	齋藤 彬夫		学生部長	井出 英人
一橋大学	副学長	大芝 亮			
	学務部長	中村 敬			

●竹中工務店関係者(5名)

●竹中育英会

竹中統一理事長、海野常務理事、嶋口・村松・河田・加藤理事、松嶋選考委員長、真仁田・香山・鈴木・田村選考委員、竹中康一・北野・関根・廣田・池田・横田評議員、矢代・土師野・松枝・久禮元評議員、斉藤・高橋事務局長、樺島元事務局長

●竹門会員

●奨学生



VI.のびゆく時代

2011

東日本大震災 復興支援活動
竹中育英会創立50周年
「竹中育英会 創立50周年
記念の会」開催
「竹中育英会50年史」刊行
海外留学支援事業開始

2012

公益財団法人に認定
文化・芸術振興事業の開始

2013

関西地区竹門会
第1回懇談会開催

2014

竹中育英会東京学生寮
開寮50周年祝賀会

2015

東京地区
竹門会50周年

2016

関西地区
竹門会50周年

2017

TakeUP(タケアップ)
会発足

2018

卒業奨学生
3,500名を超える

2019

2020

新型コロナウイルス
感染症(COVID-19)
の拡大

2021

竹中育英会創立60周年

含めた総動員の体勢で取り組み、当育英会の
50年の歩みを約160頁にまとめた。

海外留学支援事業の開始

近年、海外に留学する日本人学生数の急減が
指摘され、わが国の将来にとって憂慮すべき
事態として懸念されている。その状況に鑑
み、竹中統一理事長の発案により海外留学を
希望する学生を経済的な面で支援し、国際的
に通用するいわゆる「グローバルな人材」の
育成に寄与することを目的に、2011(平成
23)年度から新たに海外留学支援事業を開始
した。(詳細はP.64～73参照)

2012

公益法人制度改革への対応 —
「公益財団法人 竹中育英会」へ

公益法人法の改正により、当育英会は、公益
財団法人、一般財団法人それぞれの長所、短
所を比較衡量した結果、公益財団法人の道を
選ぶこととし、2011(平成23)年秋に申請、
2012(平成24)年内閣府の認定を受け、同
年4月1日公益財団法人 竹中育英会として
新たなスタートを切った。

文化・芸術振興事業の開始

2012(平成24)年度より、文化・芸術振興
事業を開始した。これは、従来アピールの場

を得ることが比較的困難であった文化・芸術
を対象に、出展を企画・実施または支援する
事業で、芸術的分野のほか、人文科学分野、
自然科学分野など、幅広い分野について文
化・芸術の振興に寄与することを趣旨として
いる。(詳細はP.74～76参照)

2013

関西地区竹門会 第1回懇談会開催

竹門会員と奨学生との交流を図り、今後社会
で活躍する奨学生に見識を深めてもらうため
の場を設けることを趣旨として、2013(平
成25)年11月、関西地区竹門会第1回懇談
会が開催された。

「初めての企業採用面接官」「弁護士に聞いて
みたいこと」という二つの講演では、企業就
職説明会解禁を約一週間後に控えたタイム
リーな内容や、弁護士の日常、弁護士になる
までの道のりなどの経験談が、会員によって
語られた。また、講演後は和やかな雰囲気の中、
講演内容や今後の運営についての意見交
換が行われた。

2014

竹中育英会東京学生寮 開寮50周年祝賀会

2014(平成26)年11月、学生寮開寮50周
年を迎え、祝賀会が学生寮にて開催された。
コンセプトは「寮の思い出を振り返り、今と
昔の寮を知る」。秋晴れの中、和やかな雰

気でテニスを楽しんだ後、午後の祝賀会に
は、竹中育英会関係者約50名が参加した。
開寮当時の寮生でもある瀧口克己氏と現寮生
との対話による50年の振り返り、現在の寮
の食事紹介の二つの企画が用意され、学生寮
は50年の間「自由」と「規律」の下、学生た
ちを大きく成長させたことを再認識する場と
なった。

2015

東京地区竹門会50周年

1965(昭和40)年に発足した東京地区竹門
会が2015(平成27)年に創設50周年を迎え
た。東京地区竹門会では、創設50周年を記
して「墓参・法要」「記念誌の発行」「謝恩パ
ーティー」からなる「創立50周年謝恩行事」が
実施された。また、2016(平成28)年には
関西地区竹門会が創設50周年を迎えた。

2017

TakeUP(タケアップ)会発足

現役奨学生と竹門会員をはじめとした当育
英会関係者との交流を通じて、自身の専門
分野に磨きをかけ、さらに分野を越えたコ
ラボレーションに発展させることを目的に、
TakeUP(タケアップ)会が発足した。京都
大学の奨学生の発案・企画によるこの会は、
自身の専門分野や関心の高いテーマについ
て学ぶ「スタディコミュニケーション」、四
季折々の名所を訪ねて親交を図る「遊び隊」
の活動を通して、現役奨学生とOB・OGを

はじめ当育英会関係者が交流する場として
2017(平成29)年に第1回が開催された。

2018

卒業奨学生3,500名を超える

2018(平成30)年3月、第56回卒業奨学生
歓送会が大阪・東京の両会場で開催された。
この年の卒業生は大学院生22名、大学生43
名の計65名で、竹中育英会設立から57年
を経て、卒業生数は海外留学卒業生を含め
3,533名となった。

2020

新型コロナウイルス感染症の拡大

2020(令和2)年、新型コロナウイルス感染
症(COVID-19)の拡大により、当育英会の
事業運営も多大な影響を受けた。大学別卒業
生歓送会は2月下旬以降すべて中止、3月に
開催予定であった卒業奨学生歓送会も中止と
なった上、新奨学生選考も対面面接を中止
し、書類審査によるものとなった。

一方、オンライン化も積極的に取り入れWEB
による海外留学奨学生の継続審査や国内外奨
学生との日々の面談など、新たなコミュニ
ケーション手法を確立した。

2021

竹中育英会創立60周年

1961(昭和36)年に誕生した当育英会は、
2021(令和3)年に創立60周年を迎えた。こ
の間、3,600名を超える奨学生を社会に送り
出している。